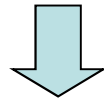


小型半履帯式トラクタによるサトウキビ管理技術体系

背景・ねらい

近年のサトウキビは減収傾向が続き、その一因として大型機械化が急速に進んだことによる弊害も指摘されている。単収回復には、きめ細かい管理作業が必要ですが、現在の機械化体系では大型化に偏る傾向もあり、きめ細かい管理作業が容易でないのが現状である。



踏圧が少なく、けん引に優れる小型半履帯トラクタを活用して、畦間管理作業ができる新しい小型機械化体系を確立する。

研究方法

- 平成23年から大隅支場農機研において半履帯トラクタの特性研究を本格実施
- 大隅支場の結果に基づき、平成25年度から徳之島支場においてサトウキビへの応用研究を実施

成果の内容・特徴

従来小型の車輪式トラクタでは実施不可能、あるいは振動により長時間運転出来なかった作業が容易に行えるようになった。(業界では20年に一度の革命！)



Newは従来法では不可能であった作業

今後の展開

半履帯トラクタを活用することで、植付機、管理作業機等の新たな高性能機械の実用化が見込まれる。